

上田市営球場にまつわる思い出や出来事（その2）

田村栄治（1組）

▲草野球での思い出

毎年、上田市営球場で早起き市民大会が開催されていた。卒業後、同じ町内に住んでいた上田球友会OB会長の高橋さん(上田駅前の「江の島屋靴店」店主)が音頭取りして結成した町内会チームに強制参加させられて、前日に東京から帰省して翌朝出場したことを思い出す。長兄、次兄、自分の3人が田村三兄弟として参加したことも多々あり、メンバー表には大・中・小と書かれていて、自分は小であった。



▲プロ野球のオープン戦観戦

中学生の時？巨人戦のプロ野球オープン戦が市営球場であり、巨人の王、長嶋、広岡、国松を生で初めて見た。

試合前のノックで長嶋がトンネル(ファンサービス?)を見せてくれた。

また、試合ではショート広岡が目を見張るフィールディングを見せてくれた。打球がグローブに入ったと思ったら瞬時に一塁に送球の速度は超スローボールであっても間一髪アウトというプレイであった。

この試合では、1961年に巨人に入団(1964年に退団)した丸子実業高出身の斎藤誠二投手(1941~2014)が投げた。長身から繰り出す縦カーブといわれるドロップを見せてくれたが、一軍での活躍は中日戦での一回のみの登板であった。

▲中学の先輩の大学オープン戦観戦

上田高校1年生の時に、明治大学と駒沢大学のオープン戦があり、明大3年生の星野仙一(1947~2018)と駒大2年生の小山健二の投げ合いを観戦した。

小山投手は丸子実業高3年の夏、甲子園に出場。初戦の天理高校戦で高校野球史上初めて隠し玉を決めた時のエースであり、2回戦は佐賀商を11対3で破り、準々決勝では木樽正明投手(1947~、ロッテ入団)の銚子商に3対0で敗戦したが3試合を完投した。

小山さんは上田一中の私の先輩で、私が中学2年の時にブルペンで相手を務めた。背は高くなく手も私よりも小さかった。中学3年の学校帰りに、丸子実に進学した小山さんが自宅前のお堂(毘沙門堂?)の境内で、お兄さんと投球練習をしていたのを思い出す。

▲高校の時に初めて知った野球ルール

市営球場は左中間、右中間の膨らみがなく、外野への大きな当たりがバウンドしてフェンスを越えるエンタイトルツーベースが頻繁にあった。

次の試合のための待機中に、右中間フェンスを越えてエンタイトルツーベースという場面があった。このとき、打者走者が一塁を踏まず二塁に、守備側がアピールプレイをしたがなかなか認められず、ボールインプレイの状態でないとはアピールができないことを初めて知った。

新しいボールを主審から投手がもらい、一塁手に転送してアピールするも、次は投手がプレートにつき、プレイが宣告された後にタイムをかけてアピール。これも認められず次にプレイの宣告の後、投手がプレートを外して一塁手に転送してアピール。ようやくアウトが宣告された。

雨天の時に教室で黒板を使って野球ルールの勉強会をしたが、野球のルールは難しく、3ストライク目の投球が空振りであっても直ちにアウトにならない例など、プロ野球でも有名校の高校野球の試合でも事件となるプレーが発生していて、YouTube で動画が見られるので興味のある方はどうぞご覧あれ。

下記に参考解説します。

- ・ 2007 年夏の神奈川大会準決勝 東海大相模高対横浜高での振り逃げスリーラン。
東海大相模が3点を先制し、なおも二死一、三塁。ここで投手の菅野に打席が回る。カウント2-2からショートバウンドのスライダーを捕球した小田は、バットを出した菅野のスイングコールを確認。そのままチェンジと思い込んでベンチに下がった。3ストライク目を空振りした場合、キャッチャーの捕球が正規の捕球と認められない場合はアウトにはならない。この時は振り逃げができる。このような場面では空振りしたときに主審はストライクとコールしてもアウトと宣告しない。
- ・ 2012年8月13日、全国高校野球選手権の済々黌（熊本）－鳴門（徳島）戦。
一塁三塁でショートライナー、ショートは一塁に送球し3アウト。アピールプレーで3アウトの置き換えをしなかったことで得点が認められた。

(2022年9月13日記)